

第1回本会レジュメ

30/07/2008

担当：熊谷歩 panda_kawaiiyone@yahoo.co.jp

使用テキスト『ブラック・アトランティック』（ポール・ギルロイ、月曜社）

今回のレジュメの構成

- 1.はじめに
- 2.ポール・ギルロイについて
- 3.『ブラック・アトランティック』読解
4. - 文献案内 -

1. はじめに

『アメリ』という有名なフランス映画がある。監督はジュネ。しかし、この映画の街頭にはほとんど、いや全くといっていいほど黒人が出てこない。現代のフランスでは街頭に黒人がいないということはない。このように、黒人は今でも「抑圧」された存在であるし、そのような文脈で読み解くことが出来る。

今回はギルロイの『ブラック・アトランティック』を使用し、本書の帯にもあるように、「近代性」と「二重意識」に着目してレジュメをすすめたい。

2. ポール・ギルロイについて

Paul Gilroy 1956年生まれ。現在、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス&ポリティカル・サイエンス（LSE）の社会学部教授。文化研究、ポストコロニアル理論。

3. 『ブラック・アトランティック』読解

3-1. 目次

序文

- 1章 近代性の対抗文化としてのブラック・アトランティック
- 2章 主人、女主人、奴隸、そして近代のアンチノミー
- 3章 「奴隸の時代からのたからもの」 ブラック・ミュージックと真正性の政治学
- 4章 「疲れた旅人を励まそう」 W・E・B・デュボイス、ドイツ、そして（非）位置取り/（転）地の政治学
- 5章 「お慰みの涙なしに」 リチャード・ライス、フランス、そしてコミュニティの両義性
- 6章 「伝えられるような話ではなかった」 生きた記憶と奴隸の崇高

3-2.

現代のイングランド黒人は西洋における全ての黒人と同様に、二つの偉大な文化的集合の間にたたずんでいる。このレトリックは国民性や国民的帰属の言語と同様に、「人種」やエスニック・アイデンティティの言語と結びついて育まれてきたのである。

歴史的連結関係とは、感覺し、生産し、コミュニケーションを共有する構造のなかで離散した黒人たちが創出し、しかしもはや黒人だけが占有しているわけではない立体音響的で、二重言語的で二重の焦点をもった文化の形式である（←タイトルの意味）。

ディアスボラが本書のキー概念である。近代の国民国家の意義を政治的・経済的・文化的単位として再評価すべきである。支配の政治構造も経済構造もナショナルな境界と単純に同じ範囲をもつものではなくなっている。

また、本書が「黒い大西洋」という訳がつけられているように「船舶」が大きな意味を成している。「LP レコード出現以前においては、おそらく船だけが汎アフリカ的コミュニケーションにとってもっとも重要な通路であった」。

3-3. 訳者解題について

ギルロイの思想的な四つの系譜

- (1) 英国特有の文化研究及び社会学の系譜。英国の文化主義や人種関係論、そして人種やエスニシティの社会学から文化研究へといたる系譜。
- (2) 近代社会思想。とりわけ、デカルト以降の西洋形而上学及び構造主義、ポストモダン思想。カント、ヘーゲル、ニーチェ、フロイト、アドルノ、ベンヤミン、フーコー、デリダなどいわゆる西洋批判理論の系譜
- (3) ダグラスやデュボイス、C・L・R・ジェイムズやフランツ・ファノン、さらにはスチュアート・ホールといった黒人思想家の系譜。
- (4) 必ずしも伝統的な知識人に属さない黒人文化の系譜。とりわけ有機的知識人としてのミュージシャンの役割。

ギルロイの批判の対象は、なによりも人種の議論を経済的な関係性や階級の議論に矮小化してきた英国のマルクス主義的な批判理論に対して向けられていた。

ギルロイによれば、英国の労働者階級文化の分析に始まる文化研究においても人種の議論は「落とし穴」になっている。たとえば、ウイリアムスは、移民問題は比較的最近のできごとであると指摘する。ウイリアムスの想起する政治的主体としての労働者階級は、イングランドの白人の男性がモデルでしかない。

3-4. 『文化理論用語集』における補遺

ギルロイは『ブラック・アトランティック』を「《人種的》純血性という危険な強迫観念を放棄するための」試みとして、また「諸概念の不可避的な混淆性と混成」や、「常に終わることがなく、絶えず生成されているアイデンティティの不安定性と可変性をめぐる論考として」提示している。

ギルロイは「近代の対抗文化」としての「ブラック・アトランティック」を位置づけている。

4. - 文献案内 -

- 『現代思想 特集ブラック・カルチャー』 10月号、1997、青土社
- 『クレオール礼賛』 ジャン・ベルナベ、ラファエル・コンフィアン・パトリック・シャモワゾー、恒川邦夫(翻訳)、1997、平凡社)
- 『帰郷ノート』 (エメ・セゼール 砂野幸穂(翻訳)、2004、平凡社)
- 『地に呪われたる者』 (フランツ・ファン、鈴木道彦、浦野衣子(翻訳)、1996、みすず書房)
- 『私のように黒い夜』 (ジョン・ハワード・グリフィン、平井イサク(翻訳)、2006、ブルースインター・アクションズ)
- 『テキサコ』 (パトリック・シャモワゾー、星埜守之(翻訳)、1997、平凡社)
- 『コーヒーの水』 (ラファエル・コンフィアン、塙本昌則(翻訳)、1999、紀伊國屋書店)
- 『東京島』 (桐野夏生、2008、新潮社)

参考文献

- 『ブラック・アトランティック』 (ポール・ギルロイ、月曜社 2006)
- 『文化理論用語集』 (ピーター・ブルッカー、有元健、本橋哲也、新曜社、2003)